



春を告げるスイセンの香り

立教池袋高等学校

高校卒業生へ

もつ子どもではない

校長 豊田 由貴夫

皆さん、卒業おめでとう
ございます。

毎年、卒業の挨拶では、
これ皆さんは社会人への
一歩、大人への一歩を踏み
出すことになる、そういう
言い方をしてきました。

しかし今年は違います。
みなさんは法律的にもも
う大人、成人になります。二
〇二二年四月、すなわち今
年の四月から成人年齢が引
き下げられて、二〇歳から
十八歳になります。

親の同意がなくてもさま
ざまな法律行為、すなわち
契約ができます。一人で自
分の住む場所を決められま
す。クレジットカードを作
ることが出来ます。進学や
就職の決定が親の同意なし
で一人です。

さらには、やはり今年の
四月に少年法が改正され、
罪を犯した場合、実名で報
道されることがあります。
と、いうことで、みなさん
は大人への一歩を踏み出し
たというわけでもありませ
ん。もう法律的にも大人、
成人になるわけです。

このために高校生にはい
ろいろと教育を行わなけれ
ばいけないと言われてしま
した。皆さんもこの成人年
齢引き下げに伴う話を聞い
たのではないかと思います。
簡単によくわからない
契約をしないように、うま
い話には気を付けるよう
に、そのような注意がされ
たかもしれません。

しかしただそのような注
意をするだけでなく、同時
に考えてほしいことがあり
ます。
これまで二十歳だった成

人年齢が引き下げられたの
は、それなりの意味があり
ます。それは、皆さんに社
会で一人前の存在として活
躍してほしいという意図が
あるのです。皆さんに、社
会の一員である、社会を
担っていく存在であるとい
うことを強く意識してほし
いという狙いがあるので
す。

今、我々の社会は大きな
課題を数多く抱えています。
日本では経済の停滞が
言われています。また経済
格差はますます広がって
います。そして世界に目を向
ければ、地球の環境は日に
日に危険な状態になってき
ていると言われています。
現在進行している新型コロナ
ウイルスの感染拡大への
対応も大きな問題です。未
だに感染の収束に完全に成
功した国はありません。

それらの問題に対応する
ためには、皆さんの新鮮
な、そして柔軟な感覚が必
要なのです。皆さんに社会
で活躍してもらい、是非組
織の中心になってもらいた
いということです。選挙に
ついては、一足先に十八歳で
投票ができるようになりま
した。皆さんには十八歳で
大人になるという強い意識
を持ってほしいと思いま
す。

今後ほとんどどの人が大
学で勉強を続けることにな
ります。立教池袋高校にな
身につけた力を活かして、社
会で活躍するリーダーとな
り、そのような意識を持っ
て卒業後も過ごしてください。

やっばりの言葉

進学に備え中学校生活を振
り返るプリントで「あなたの
長所は」という質問があっ
た。「そんなものはない」「わ
からない」。君たちからはそ
んな反応が少なからず返っ
てきた。学校でにぎやかに過
していても、どこか自信が過
剰に生活の核にすればいい
かわからない。そんな様子が
感じられた。自分の存在価値
は何か。聖書では神と他者へ
の愛が人間の存在意義だと述
べているように私は思う。君
たちには、一生懸命努力をし
て自分を高め、そこで得た力
を他人や社会のために役立
て、人から感謝されるような
生活を作り上げて欲しい。感
謝されれば素直に嬉しい。そ
うしたときに自分の存在価値
も認められるようになるの
ではないか。「向上心と隣人愛」
もう耳慣れた言葉である。君
たちにこの言葉を贈りたい。

(二組 重原康秀)

世界の色は変わる

卒業おめでとう。
入学の時と同じように、卒業
のこの時も国語の入試に出題し
た作品(「非接触の恋愛事情」)
の「節」を紹介したい。
「好きなことを好きと言え、
「自分も」と答えてもらえ
るだけで僕は、世界の色が
変わる気がした」。

「好きなことを好きと言え」
環境はそう簡単には生まれ
ない。まずはとことん突き詰
めて自信が持てないといい
環境でないと、安心して言
えない。そしてさらに、他者
の愛を認め合ひ、尊重し合
う環境でないと、安心して
生きていくことは難しい。
そして、三年間立教池袋中
学校で過ごした君たちには、
この環境を生み出すこと
を祈りたい。そして、その
環境下で「自分も」と答
えてくれる他者が現れ
る。共有がこれほど嬉しい
しく心強いことはない。ス
タージがあるにつれて、「自
分も」と答えてくれる人は、
必要だし、きつと増えてい
く。こういふ時に、世界の
色は「変わる」のだ。この
感覚を君たちにも味わって
ほしいと思う。

(二組 永田真一)

苦難の中

「主は与え、主は奪う。主の御名はほ
めたえられよ。」(ヨブ記 一・二)
皆さんの中学生生活はコロナによって苦
難の連続だったね。一年生の後期総合
テストが無くなるとから始まり、二
年生の前期はほぼなし、清里キャン
パスでも校外学習もなし、体育祭は三
年生でできたけど縮小。学生会も思っ
たようにできない。「何で自分たちは悪
いことをしていないのにこんな目に合
わなければならないんだ？」こう思っ
た人は多いはずだ。

冒頭の聖書はヨブという人の言葉で
す。このヨブは、悪いことをしてない
のに多くの災いが起こりました。ヨブは
最初は神の御名をたたえ、神を讃
美していましたが、あまりにも多くの
災いが続くにつれて「何でこんな目
に？」と、思い始めました。最終的に
は神様が出てきて考え方を変えました。
(細かいことは聖書を読んでみよう！)
この聖書の解釈は難しいですが、私
は次のように考えています。この世は
良いことばかりではなく、苦難もある
。その苦難をなぜかと思わず、どのよう
に捉えるか、生きるとし、考えなさい。
長い人生苦難はあります。この中学
生活でも多くの苦難がありました。こ
の苦難を悪いことだと思わず、次の
ステップにつながるように考えられると
最後は明るい。何だか暗い話になった
「あなたがたは悲しむが、その悲しみ
は喜びに変わる。」(ヨハネ 十六・二〇)
(三組 吉井佑介)

高三組主任より

高三組主任より

透き通る気持ちで

パンデミック下のベストセラー
「ベスト」を著したカミュは「不
条理への反抗」という文学的
主題として、どんな運命に翻弄され
ても決して諦めない人間の有り
様を「ベスト」にも顕著で、主人
公のリューはベストとの闘いを
「果てなく続く敗北」と闘いを
「一方」に「それ」は闘いを
やめる理由にはなりません」とと
師としての責務を全うしようと
する。この姿勢こそがカミュの「反
抗」である。

君たちが入学した三年前には
こんな未来が待ち受けていたこと
など誰も予想できなかった。卒
業式を間近に控え、あり得たは
ずの思い出し、思い出し、思い
出し、世界は既に変わってしま
った。私も君たちも自分も他
者の尊厳、人生のためにこの世
で何と「反抗」して生きてい
ければならぬのだろうか。
この三年間を通じて様々な場
面で君たちの強さを目にしてい
た。心から満足いく三年間では
なかったかもしれないが、思い
出に代わった経験もきつとある
はずだ。そんな君たちなら自分
の力で強く生き抜いてくれる
と信じている。どんな不条理に見舞
われても決して諦めないこと、そ
れだけが忘れないうで欲しい。
卒業おめでとう。

(二組 高井祐紀)

始まり

卒業式はアメリカ英語のフォー
マルな表現で Commencement と言
う。英和辞書で引くと、「学位授与
式・卒業式」とも、「開始・始
まり」(beginning)と載っている。
漢字の「卒」には「終る」とい
う原義があることを考えると、物
事の捉え方や視点の文化的な違
いがつづく。

もう一つ、卒業といえ
ば graduation が頭に浮かぶ。だ
う語源を辿ると「階段段階」とある。
「学年や成績段階」を意味する
grades も関連している。
「卒業」というのが、人生
という旅 (Journey) の始まりに過
ぎらないのである。新たな階
段は続いていくのである。新たな
一歩を上段に向かって踏み出し
てほしい。過去の自分を背負いながら
では、どんな頂上を目指すのか。
それは自分の「テーマ」を見つ
けるまでもがきつとあることだ。
興味、関心が定まらないという悩みをよ
く聞かぬが、泥臭くも、格好よく
かかない。失敗しても、格好よく
していない。葛藤したり、揺ら
がっている。それは階段を上
がっている証だ。安住ではなく、次
の階段を踏み出す力が要るのだ。
卒業おめでとう。

(四組 新島亮)

新しいリーダーシップ

立教池袋が力を入れている
「リーダーシップ教育」が目指
す「新しいリーダーシップ」は、
「目標共有・率先垂範・同僚支援」
を最小三要素とし、誰でも発揮
できるリーダーシップを必要とし
ません。人は何で働いた話でし
ょう。先進的な行動論に聞か
えよう。立教池袋で学んだ君達
にとっては、少し意識を変え
るだけで、新しいリーダー
シップを発揮できるはずだ。
コロナ禍において、制限され
た環境の中でも、出来ることを
手探りで実現した R.I.F. の
オンライン開催、久しぶり
に開催できた体育祭での団結力
が、互いを尊重して認め合う
関係が、互いを尊重して認め
合おう。明確な目標を掲げ、率
先して行動し、仲間と支え合
う新しいリーダーシップの三
要素を実践していきませんか。
「一番先になりたい者は、す
べての人の後になり、すべての
人に仕える者に成らなさい。」
(マルコ 九章三五節)

立教池袋高校を旅立つ君達
が、新しい世界で存在力を発
揮し、活躍されることを、お祈
りいたします。
(三組 後藤寛)

(四組 小林隆史)

Shoot for the moon
Even if you miss, you'll land among
the stars.

2022年度 立教大学 推薦入学者数

学部	学科	専修	推薦枠	合格者数
文	史	キリスト教	2	0
		日本史学	8	6
		世界史学		
		超域文化学		
	教育	3	4※	
	文	英米文学	6	1
		ドイツ文学	2	0
		フランス文学	2	1
		日本文学	4	2
		文芸・思想	3	3
経済	経済	13	13	
	会計ファイナンス	7	7	
	経済政策	7	7	
理	数	(2)	3	
	物理	(2)	1	
	化	(2)	0	
	生命理	(2)	0	
社会	社会	6	6	
	現代文化	6	6	
	メディア社会	6	6	
	法	14	14	
法	政治	4	5※	
	国際ビジネス法	4	4	
観光	観光	7	4	
	交流文化	6	0	
コミュニティ福祉	福祉	6	0	
	コミュニティ政策	6	1	
	スポーツウエルネス	4	3	
経営	経営	9	9	
	国際経営	7	7	
現代心理	心理	6	3	
	映像身体	6	4	
異文化	異文化コミュニケーション	6	6	
GLAP			1	1
合計			169	127

※ それぞれ新座校より1つ枠を受ける。
理学部は、各学科4名まで。ただし、理学部全体では8名まで。

自己推薦

自己推薦は七項目あり、その中から三項目まで申請できます。今年度も殆どの生徒が学習面と生活面から申請をしました。
学習面は三年間でA合格（B合格二個でA合格に相当）が四三名。生活面では中高六年間精勤または高校三年間皆勤が七九名。
共に学校生活において大変努力した結果であると思われまます。
満点の一五〇点が十六名、一三〇点以上が八六名の結果でした。
※卒業生受賞者については式当日配布の式文をご覧ください。

十字 今月の聖句

²The glory of God appeared to our father Abraham...³and said to him, "Get out of your country and from your relatives, and come to a land that I will show you."
Acts 7:2-3

These words were said by Stephen as he was recounting the history of his forefathers. They are words of departure, for Abraham was told by God to leave his family and his surroundings in order to make a new beginning. Abraham's story is brought forward to the present, for, as we end one school year, we prepare for a new one, just around the corner. For many of us, the change is real and will instill new memories. Most of those memories will be good, but perhaps a few of them will be not so good. Departing can be a sad thing to experience, but for most of us, it means new adventures, new surroundings, and a new chance to find concrete meaning in our lives. In Abraham's case, it seems very dramatic. God appearing and telling him to leave was perhaps something he did not want to hear. Perhaps he was content, feeling attachment to his surroundings, his family, his lifestyle. But perhaps this encounter was something that came to him because he was *not* content, felt some need to leave his surroundings, some antagonism with his family, or some restlessness about his lifestyle. We will never know the real reason, but the point is that Abraham *did* leave, following the word of God to a new land. He is known as the father of three religions because the Jews, Christians, and Muslims all claim him, rightfully, as their founding ancestor. I doubt any of us will have that kind of fame, but what is important for us to remember is that our real feelings (just as Abraham's were) are a constant reflection of what God wants for us. Praying brings us closer to God and hence, closer to ourselves. My wish is that all the new graduates will deepen this relationship as they leave for new endeavors.
Fr. Mark Stahl, chaplain

英語条項

今年も英検・TOEICで、ハイスコアを取った生徒が大変多かったようです。一七名が認定され、このうち、英検二級（またはTOEFL・TOEIC等）以上と同程度のスコア）以上の有資格者が一〇七名となりました。

2022年度 立教大学被推薦者の英語条項

英検2級 (TOEFL, TOEIC等も含む) 以上で認定	84%
英検準2級 (TOEFL, TOEIC等も含む) + αで認定	16%

中学一年便り

「聴く」の次

一年を振り返ってどうだったでしょうか。それには初心に立ち返る必要があります。君に最初に配られたホルトノキに私は「生き方の基準を持って」初瀬川先生は「お互いを大切にせよ」田部先生は「応援される人になれ」吉田先生は「違いを認め合い、尊重し合え」とそれぞれ書いています。まさにもう一度読み返して欲しいところですが、それを踏まえ、この学年は「聴く」をテーマに活動を進めてきました。さて、君はどれくらい意識して生活し、自分の成長の糧とできたでしょうか。授業にしろ講演にしろ、全身全霊をかけて「聴く」ことはできましたか？ 時は止まってくれませんか。成長できた人も、できなかった人も強制的に次のステージに移行します。
「聴く」の次は「書く」です。インプットした事や自分の内にある有象無象をアウトプットして整理し、客観的に見る、または、人に見て貰うことで、自分分かっていくつもりで、分かっていかなかったという事に気付くことができそうです。具体的なことで言うと講演会など、人の話を聞いた後の振り返り用紙はしっかりと書いていますか？ 四月当初は多くの人が熱心に書いていました。今、そのように向き合っている人が少ないと感じています。この用紙には成績はつきません。だからこそ、何の意味があるのか、もしくは面倒だと思っている人が多いのではないのでしょうか。目に見える評価も大切ですが、見えないものを大切にできる人になって欲しいと願っています。

(砂井博光)

中学二年便り

草魂

日本のプロ野球史上歴代四位となる三一七勝をあげた昭和の大投手は、現役時代、ファンからサインを求められると必ず「草魂」という座右の銘を書いた。
一年目で十勝、二年目以降は五年連続で二十勝以上したが、その後の三年間は低迷が続き、悩みに悩んだドン底の時期があった。
そんなシーズンオフのある日、自宅の庭をぼんやり眺めていると、コンクリート舗装してある部分から緑の雑草の芽が勢いよく生えているのを目にした。こんな小さな雑草の芽に、コンクリートに負けないほどの強大な力が秘められているとは。打たれても、踏まれても、なおも強く生き、這い上がろうとする雑草のたくましさ。
以来、逃げる投球はしないと、真つ向から打者に向かっていった。被本塁打数五六〇本は断トツの歴代一位。同じく歴代一位の無四球試合七八回というこの数字は、小細工などせず勝負にこだわり続けたことを物語っている。「打者に打たれても腹が立たなくなった。そんな投手が勝負の世界にいる資格はない。」頑固一徹、不器用で、自他共に認めるワガママな大エースの引き際の言葉であった。
君たちは四月から三年生。振り返ると怒りや不満のぶつけどころもない二年間であったかもしれない。だが打たれても、踏みつけられなくても、また立ち上がり、少しずつ成長していく君たちの姿を、周囲の誰も頼もしく感じているに違いない。

(古賀賢之)

高校一年便り

今の自分に満足しているか

検温、マスク着用、手指消毒、換気など私たちのルーティンが二年前から変わってしまっています。そして、休校期間、部活動の停止、大会の中止、日々の行動制限などにより、かけがえのない経験も奪われてしまいました。君たちはこの二年間で中学生から高校生になり、そして早いもので最初の一年を終えようとしています。私はそんな君たちに、このタイミングだからこそ考えてもらいたいことがあると思います。
それは、「今の自分に満足しているのか」ということです。やるべきこと、やりたかったこと、二年前に想像していた高校一年生の自分に成れているのでしょうか。コロナ禍で失った経験と時間は戻ってきません。せいにしてもいいのです。今の当時は苦しかったが、今振り返ればその経験を活かしているのか否かが、自分がよく知っていると思います。今の自分に満足できていないのであれば、それはこの二年間の環境のせいではなく、自分の努力不足と諦めた心の問題なのです。
偉そうに言っている当の私は自分に満足できない一人です。もっと全力を尽くせたのではないのか、最善の選択ができたのではないのか、振り返ると自分の後悔しかありません。私のような歳になれば挽回するチャンスすら限られてきますが、君たちには最大の武器である若さがあります。挑戦できる、やり直せるチャンスは無限にあります。昨日閉会した北京オリンピックで挑戦するアスリートの姿を見て、尚更そう思いました。
過去や環境を恨むより、自分と未来に期待を持ち、諦めずに生きていこう。四月から宜しくお願ひ致します。

(梅野伸也)

高校二年便り

最後の年の選択

「報われない努力だったのかも知れない。」
北京オリンピックの競技後、羽生選手が口にした言葉である。確かに、努力が望んだその時には、報われないこともあるだろう。オリンピックでもそういう選手は何人も見られた。けれども、「無駄な努力」は無いと私は思っている。努力したその時間は決して消えず、成果はその瞬間には上げられずとも、どこかで必ず何かに結びつくものだと思うからだ。努力は自分の中に何かを残す。
一方で、すべき時にすべき努力をしなかった場合、「無駄な時間」が流れるとは思っている。後からではできない努力もある。取って「何もしない」という選択をするのは、人生のもっと先の話。目の前にできる努力があるのに、言い訳ばかりして逃げていく自分がいないだろうか。なんでもつたいない！しかし残念ながら人間そう気づくのは、いつもできる瞬間が過ぎてしまってからなのである。
高校最後の一年が、とうとう始まる。面白くするのにつまらなくするの、自分次第。努力しなければ疲れないだろうが、貴重な時間を無駄にする。そして何より（本人は気づいていないかもしれないが）、ただただ格好悪い。
何かを残すのか、何も残らないまま終わるのか。その選択ができるあなたたちが羨ましい。

(廣瀬由紀)